

次世代型リチウムイオン電池「全樹脂電池」の要素技術を APB 株式会社にライセンス供与 ーライセンス供与を通して全樹脂電池の事業化加速に貢献ー

三洋化成工業株式会社

(証券コード 4471)

三洋化成工業株式会社（本社：京都市東山区、社長：安藤孝夫、以下 三洋化成）は、子会社で、次世代型リチウムイオン電池「全樹脂電池」の開発を行う APB 株式会社（本社：東京都千代田区/代表取締役：堀江英明、以下 APB）に全樹脂電池の要素技術のライセンスを供与することを決定し、非自動車用途における全樹脂電池の開発、製造及び販売を APB が行う権利を許諾する実施許諾契約を締結しましたのでお知らせします。

APB は、バイポーラ積層型のリチウムイオン電池である全樹脂電池(All Polymer Battery)の製造及び販売を行うスタートアップ企業です。全樹脂電池は堀江英明氏（APB 株式会社の代表取締役 CEO）が 1990 年より構想し、堀江英明氏と三洋化成および日産自動車株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表執行役社長兼最高経営責任者：内田誠）が共同で要素技術を開発した次世代型リチウムイオン電池です。全樹脂電池は、三洋化成が独自の界面制御技術を駆使して新開発した樹脂を用い、活物質に樹脂被覆を行い、樹脂集電体に塗布をすることで電極を形成しています。このような独自の製造プロセスにより、従来のリチウムイオン電池よりも工程を短縮することで、製造コスト・リードタイムの削減を実現するとともに、これまでにない高い異常時信頼性とエネルギー密度を実現しています。部品点数が少なくて済むバイポーラ積層型で、樹脂で構成しているため、電極の厚膜化が容易に行え、セルの大型化が可能で形状自由度が高いことも特長であり、リチウムイオン電池理想の構造ともいえます。

当社はこのような世界初となる全樹脂電池の社会実装の早期実現を支援する目的で、今回、全樹脂電池の要素技術を APB にライセンス供与することといたしました。

現在、APB は複数の国内有力企業から出資を受け、年間ギガワットアワー(GWh)クラスの電池が生産可能な量産工場設立の準備を進めており、全樹脂電池の事業化を加速する上で要素技術のライセンス供与は不可欠と判断し、今回 APB に対してライセンス供与を行うこととしました。当社は引き続き、全樹脂電池事業に経営資源を投入し、APB と共同で全樹脂電池の開発を進めていきます。

全樹脂電池は、より安全で安定した電力の供給に役立つだけでなく、再生可能エネルギーの普及など環境負荷の低減も期待できます。さらには IoT、AI、ロボット等次世代の産業基盤のさらなる強化に貢献することが期待できます。当社はこのような全樹脂電池の事業促進を支援することで、より大きな社会価値の創造を図り、持続可能でより良い社会の建設に貢献していきます。

【三洋化成工業株式会社 代表取締役社長 安藤孝夫によるコメント】

三洋化成は、2012 年より全樹脂電池の開発を推進してきました。また、全樹脂電池の事業化を推進す

る APB 社に対しても、昨年 2 月に子会社化した上で、事業化を推進しております。

今回のライセンス供与も含めて、今後も APB 社を全面的にバックアップしていく予定です。

【APB 株式会社 会社概要】

日産自動車の電気自動車である『リーフ』のリチウムイオン電池開発の主導的立場を担った堀江英明により 2018 年 10 月に設立。次世代型リチウムイオン電池である全樹脂電池の量産化を目指す。

設立 : 2018 年 10 月

代表者 : 堀江 英明

事業内容 : リチウムイオン電池の研究開発・製造・販売、コンサルタント業務等

所在地 : 東京都千代田区神田須田町 1 丁目 3 番地 9 PMO 神田万世橋 3 階



<本件に関するお問い合わせ先>

三洋化成工業株式会社 メディア・IR 部

電話 075-541-4312